

(参考) 出演者プロフィール

阪 哲朗 ばん てつろう (指揮)

2023年4月よりびわ湖ホール第3代芸術監督に就任。京都市立芸術大学作曲専修で廣瀬量平氏らに師事。卒業後に渡欧しウィーン国立音大でK. エステルライヒャー、湯浅勇治氏らに師事。在学中よりビール歌劇場専属指揮者を務める。これまでにブランデンブルク歌劇場第一指揮者、コーミッシェオーパー専属指揮者、アイゼナハ歌劇場並びにレーゲンスブルク歌劇場で音楽総監督を歴任。ソフィア歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、グラーツ歌劇場、バーゼル歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場など約40に及びオーケストラ、歌劇場に招かれ成功を収めている。日本においては、NHK交響楽団をはじめとする主要オーケストラ、新国立劇場、二期会などのオペラ団体を指揮している。現在、山形交響楽団常任指揮者。2023年4月より京都市芸術大学音楽学部教授。国立音楽大学、東京芸術大学、山形大学などより招聘教授として招かれるなど、後進の指導にも力を注いでいる。第44回ブザンソン国際指揮者コンクール優勝、ABC国際音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、京都府文化功労賞など受賞多数。滋賀県在住。

京都市交響楽団 (管弦楽)

1956年に創立し、日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つオーケストラ。2015年、広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月、広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収めた。2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞等受賞。2023年4月から第14代常任指揮者に沖澤のどかが就任。さらに2024年4月からは首席客演指揮者にヤン・ヴィレム・デ・フリースが就任。京響は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。

オフィシャル・ホームページ <https://www.kyoto-symphony.jp/>

中村敬一 なかむら けいいち (脚本・構成)

武蔵野音楽大学、同大学院で声楽を専攻。卒業後、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属してオペラスタッフとして活躍。ウィーン国立歌劇場にてオペラ演出を研修し、帰国後、数々のオペラ演出を手がけながら、声楽家の育成、オペラの普及に尽力している。びわ湖ホールでは〈びわ湖ホール 青少年オペラ劇場〉〈びわ湖ホール オペラへの招待〉シリーズのほとんどの演出、ジルヴェスターコンサートなどの演出を手がける。「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」は初年度より構成・演出を担当。音楽的な視点と豊かな感性による誰もが親しめる舞台づくりは高い評価を得ている。

びわ湖ホール声楽アンサンブル (司会・独唱・合唱)

監修：阪 哲朗 (びわ湖ホール芸術監督)

名誉指揮者：田中信昭 桂冠指揮者：本山秀毅 指揮者：大川修司

全国から厳しいオーディションを経て選ばれた声楽家により構成される日本初の公共ホール専属声楽家集団。

「声楽アンサンブル」とは、ドイツ語圏の歌劇場においてオペラのソリストを担う劇場専属歌手を意味する。ソリストとしての高水準の実力だけでなく、アンサンブル、合唱の中核となり得る優れた声楽アンサンブルとしても各方面から注目を集めている。びわ湖ホール独自の創造活動の核としてびわ湖ホール開館の年の1998年3月に設立して以来、自主公演への出演を主な活動とし、オペラ公演や定期公演を行うほか、依頼を受けて全国各地でも多数の公演を行っている。また滋賀県内の学校を対象とした公演を行うなど、音楽の普及活動にも積極的に取り組んでいる。

過去在籍したメンバーは総勢70名を超え、活動期間を終了した後は「ソロ登録メンバー」として、数多くのコンサートやオペラに出演するなど幅広く活躍している。2013年第26回大津市文化賞、2017年第42回滋賀県文化賞受賞。

ソプラノ	小林由佳	佐々木真衣	高田瑞希	山岸裕梨
アルト	岩石智華子	徳田あさひ	森 季子*	山内由香
テノール	有ヶ谷友輝	有本康人	奥本凱哉	福西 仁
バス	市川敏雅*	大野光星	平 欣史	西田昂平

*…びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー